

2013年「アルミ業界重大ニュース」について

2013年12月26日

(一社)日本アルミニウム協会

項 目	コ メ ン ト
① ㈱UACJが発足、世界第3位のアルミ圧延会社が誕生	10月1日、古河スカイ㈱と住友軽金属工業㈱が経営統合して㈱UACJが発足。アルコア、ノベリスに次ぐ世界第3位のアルミ圧延会社が誕生。
② アサハンアルミ製錬プロジェクトからの日本勢撤退	日本とインドネシアのアルミ製錬合弁会社「PTインドネシア・アサハン・アルミニウム (イナルム)」について、日本側は保有する全株式を5億5,670万ドル (約570億円) でインドネシア政府に売却することで合意。イナルムはインドネシア政府が国有化することとなった。
③ アルミ製鉄道車両、累計生産2万両を達成	1962年に日本で初めて山陽電鉄にアルミ製鉄道車両が採用されて以来、5月に累計生産2万両を達成。それを記念し、10月24日に「アルミ製鉄道車両誕生50周年および2万両達成記念講演会」を開催。鉄道事業者、車両および車両部品メーカー等多数の参加があり、盛況裏に終了。
④ リチウムイオン電池向けのアルミ箔が急増、過去最高を記録する勢い	リチウムイオン電池を搭載したハイブリッド車、電気自動車の普及に伴い、電池の正極および外装材に使用されるアルミ箔の需要が急増。リチウムイオン電池向けが過半を占める「電気機械器具・その他の電気機器」の1～10月の出荷実績は14,918ト (対前年同期比：+8.0%) と、過去最高だった2011年の16,670トを上回る勢い。
⑤ アルミ企業の海外展開、加速度強まる	電力コストやエネルギーコストの上昇等による製造業の海外移転に伴い、部素材産業の海外展開も加速。㈱神戸製鋼所が自動車用アルミパネルで中国に、三菱アルミニウム㈱が自動車熱交換器用アルミ押出多穴管でインドに、日軽エムシーアルミ㈱がアルミ合金事業でインドとメキシコに進出するなど、年々アルミ企業の海外展開の加速度が強まる。
⑥ 中国のアルミ新地金生産、世界の約半分へ	2013年の中国のアルミ新地金生産は、1～9月の9ヶ月間で1,621万ト (対前年同期比：+8.7%) で、通年では約2,490万トとなる模様。2013年の世界のアルミ新地金生産は約5,075万トとみられており、中国は世界の生産量の約半分を占めることになる (中国の調査会社「安泰科」レポートより)。
⑦ アルミ缶リサイクル率、94.7%と過去最高を記録	6月、アルミ缶リサイクル協会は、2012年度のアルミ缶リサイクル率が前年度比2.2%増の94.7%と過去最高を記録したことを発表。これで4年連続で90%以上のリサイクル率を達成したことになる。
⑧ LME、指定倉庫の搬出入量に関するルールを施行	LMEは、アルミを中心に在庫の滞留及び搬出遅滞が慢性化した構造の転換を図るため、指定倉庫の地金搬出・搬入に掛る規則 (倉庫ルール) を2014年4月1日から施行すると発表。在庫搬出の順番待ちが50営業日以上倉庫を対象に、1日当たりの搬出義務量を現在よりも拡大すると共に、倉庫業者の不当なインセンティブの監視・防止等により、出庫を促すこととした。

以 上